

ポスター7

ポスター発表(研究)

**中国語を母語とする児童を対象とした教科書リライトにおける漢字の扱い
—学習支援に向けた「リライトのための日中漢語対応表」の作成と活用—**

鎌田美千子(宇都宮大学)・劉琮(宇都宮大学大学院生)

1. 研究の目的

本研究の目的は、中国語を母語とする児童への学習支援の一環として国語科教科書のリライトする際の漢字の扱いを明らかにし、教員や支援員の学習支援に資することである。

2. 研究の意義

教科書リライトに関する研究には、中田(2009)、光元(2014)等があり、漢字の扱いに注目すると、低学年の漢字とルビの使用が一般的である。一方で、中国語を母語とする児童が読み手となる場合には、むしろ中国での既習漢字を残したほうがよいと思われる。しかし、日中の各漢字の対応や配当学年を把握していなければ、こうしたリライトは難しい。本研究では、この点を解決するために、教員等が活用できる「リライトのための日中漢語対応表」(以下、「対応表」)を作成し、関連する漢字の情報を参照できるようにした。

3. 研究方法

小学校国語科教科書から主要な12単元を選定し、各単元で使用された漢語366語を対象とした。「対応表」には、各語を構成する漢字の配当学年(日・中)、表記、同義の中国語等を示した。そして、学習時期を考慮して(a)意味と表記が日中で同じ語、(b)意味が同じで表記が類似する語、(c)その他に類別した。これをもとにリライトの試案を検討した。

4. 結果と考察

「対応表」に掲載した全366語の約3割の語が日本語と中国語で意味と表記が同じであった。また約1割の語が日本語と中国語で意味が同じで表記が類似していた。これらの結果から、約4割の語は言い換えずに使用できることが示唆され、児童の既習漢字を活かしたリライトが可能となった。今後、更に掲載する単元を増やしていく予定である。

.....

【引用文献】

中田敏夫(2009)「リライト教材を用いた外国人児童の国語科学習支援の実践—0時間学習での導入—」『愛知教育大学教育実践総合センター紀要』12, pp.159-165.

光元聰江(2014)「取り出し授業と在籍学級の授業とを結ぶ『教科書と共に使えるリライト教材』」『日本語教育』158, pp.19-35.

【付記】

本研究は、JSPS 科学研究費 JP16K02796 の助成を受けたものである。